



Alleanza

2022年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年10月11日

上場会社名 アレンザホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3546 URL <http://www.alleanza-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅倉 俊一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 三瓶 善明 (TEL) 024-563-6818
 四半期報告書提出予定日 2021年10月15日 配当支払開始予定日 2021年11月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第2四半期の連結業績(2021年3月1日~2021年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第2四半期	79,634	△1.7	4,237	△24.6	4,504	△23.4	2,908	△23.2
2021年2月期第2四半期	81,003	21.1	5,620	181.9	5,883	169.1	3,788	191.1

(注) 包括利益 2022年2月期第2四半期 2,958百万円(△24.7%) 2021年2月期第2四半期 3,928百万円(197.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第2四半期	96.67	96.52
2021年2月期第2四半期	126.20	125.94

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第2四半期	78,741	27,477	33.4
2021年2月期	80,489	25,066	29.7

(参考) 自己資本 2022年2月期第2四半期 26,313百万円 2021年2月期 23,924百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	16.0	—	20.0	36.0
2022年2月期	—	18.0			
2022年2月期(予想)			—	18.0	36.0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年2月期の連結業績予想(2021年3月1日~2022年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	154,600	△1.8	5,930	△29.0	6,400	△27.8	4,000	△22.2	132.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年2月期2Q	30,193,386株	2021年2月期	30,168,966株
② 期末自己株式数	2022年2月期2Q	61,593株	2021年2月期	116,068株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年2月期2Q	30,082,352株	2021年2月期2Q	30,021,501株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュフロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2021年3月1日～2021年8月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対して国内でのワクチン接種も開始され収束に向けた期待感が見えてきたものの、変異株の流行など全国的な感染の再拡大を受けて、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発令が対象自治体ごとに断続的に繰り返し講じられるとともに各種施設の休業、営業時間短縮が要請されるなど経済への影響も長期化しており依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、主力事業であるホームセンター店舗、ペット専門店の営業において、ソーシャルディスタンスの確保、手指消毒の完全実施、呼びかけ等の感染防止策を徹底するとともに新型コロナウイルスの職域接種を実施するなど従業員とお客様の安全を確保したうえで、安心してお買い物をしていただける店舗環境作りに取り組み、地域のお客様への生活インフラとして生活必需品の供給に継続して注力して参りました。

また、「新たな生活様式」の定着化、リモートワークの普及などライフスタイルの変容、非接触志向のオンラインを活用した買い物、キャッシュレス決済の利用など、消費者のデジタルシフトが加速する中で、商品ニーズ、消費行動の変化を迅速に捉え対応するとともに、「商品力の向上」として、PB商品の比率拡大、オリジナル商品開発による差別化を進め目的来店性の強化に取り組んでおります。

新規出店につきましては、当第2四半期連結累計期間において、ダイユーエイトはオフィス用品専門店1店舗（山形県）、自転車専門店1店舗（福島県）、ホームセンターパローはプロショップを1店舗（愛知県）、タイムは広島県にホームセンターを1店舗、アミーゴは岡山県、京都府にそれぞれ1店舗（ペット専門店）を開設しております。また、スクラップ&ビルドにより4店舗退店しております。これにより当第2四半期連結会計期間末の店舗数は277店舗となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）の連結営業収益は、796億3千4百万円（前年同期比1.7%減）、連結営業利益は42億3千7百万円（同24.6%減）、連結経常利益は45億4百万円（同23.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は29億8百万円（同23.2%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

〔ダイユーエイト〕

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で3.4%増加しましたが、来店客数が前年同期比で8.1%減少したことにより、既存店売上高は4.9%の減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、従来より重点的に品ぞろえ、サービス地域一番店を目指し取組んできた植物、園芸が天候与件もあったことで第2四半期全体を通じて計画を上回る売上水準で推移しております。当期は2月に発生しました福島県沖地震の影響で木材、工具などを中心に家回りの補修特需が発生したこと、長期化するコロナ禍での巣ごもり需要により、観葉植物、花苗、家庭用除草関連用品等の売上が好調であったことに加えて7月は猛暑日が続いたこともあってエアコン、扇風機等の季節商品の売上が好調に推移したことも第2四半期全体の売上高の底上げに寄与しております。しかしながら8月のお盆商戦は天候に恵まれず夏物需要が低迷し季節商品を中心に前年比で大きく売上が減少したこと、また前年はコロナ特需の発生により客数を大きく伸ばし、生活衛生用品、家庭用品、家電等を中心に売上指数が非常に大きかったため、当期は相対的に客数減少の反動が大きく前年同期比で既存店売上高は減収という結果となりました。

EC部門につきましては、コロナ禍のもとで非接触志向の高まりから市場規模も拡大しているなかで、EC取扱い品目の増加と、さらなるユーザーサービス機能を拡充させるために即日発送可能商品数を大幅に増加させたことにより前年同期比でEC取扱高を大きく伸ばすことができました。

利益面につきましては、PB商品の取扱いアイテム数の拡大と販売強化による収益率の改善に取り組んでおり、今後さらなる商品開発のスピードを高めオリジナル商品の拡大に重点的に取り組んで参ります。

コスト面につきましては、広告等の販売促進費や上昇傾向にある物流コスト、キャッシュレス決済手数料の負担増加の影響により販売費及び一般管理費が前年同期比で2.0%増加しております。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント営業収益は244億1千8百万円（前年同期比2.4%減）、セグメント利益（営業利益）は11億4千4百万円（前年同期比34.5%減）となりました。

〔タイム〕

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で2.9%増加しましたが、来店客数が前年同期比で9.5%減少したことにより、既存店売上高は7.0%減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、ホームセンタータイムの主要な出店エリアである中国、四国地方は3月から5月にかけて天候与件もあり作業衣料、農業資材、自転車等の商品を中心に売れ行きが好調に推移しました。また5月には岡山・広島県に拡大された緊急事態宣言以降、外出自粛生活のもとで「おうち時間」「ペットと過ごす時間」が増加したことでウエットフードやおやつフード等の商品が前年比で売上増となっております。6月から8月にかけては、花苗・野菜苗など家庭園芸関連が天候に左右されながらも比較的好調に推移するなか、外出自粛が続く生活環境において身近に植物を楽しむことを目的として、観葉植物や庭木の売上高が伸長している状況であります。そのほか、キャンプ・バーベキュー、プール等のレジャー関連商品は比較的安全なレジャーとして依然として需要が拡大しております。しかしながら、8月の豪雨等の影響により季節商品は苦戦したほか、前年は新型コロナウイルスの影響によりマスク・除菌関連商品・紙製品の一時的な販売数増加、テレワークや在宅勤務、外出自粛により木材・塗料等のDIY商品、家具インテリア用品、キッチン・器具・調理用品等の家庭用品に特需があった影響が大きく、当期は前年と比較して減収という結果となりました。

販売費および一般管理費につきましては、作業に応じた人員の配置、残業時間の削減を実施したほか、折込みチラシ回数や配布エリアの削減、レギュラーポイントセールの見直し、間接部門の経費削減を行うことで必要コストの圧縮を継続しております

これらの結果、タイムにおけるセグメント営業収益は82億3千5百万円（前年同期比1.6%減）、セグメント利益（営業利益）は2億4千9百万円（前年同期比45.0%減）となりました。

[ホームセンターバロー]

ホームセンター事業は、既存店ベースの客単価が前年同期比で4.3%増加しましたが、来店客数が前年同期比で9.7%減少したことにより、既存店売上高は5.8%減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、当期は鮮度・品揃えにこだわった花苗・野菜苗を軸に、関連する用品・資材の販売に注力して参りました。また、寄植鉢の作成・販売を強化し、お客様にプラスアルファの提案を行っております。アウトドアカテゴリにおいては、コロナ禍におけるアウトドア需要への期待にお応えすべく、キャンプ用品の品揃えを強化した「アウトドアワールド」コーナーを新たに4店舗追加展開しております。木材、建築資材におきましては、原料の高騰、供給不足が続いておりますが、商品の確保を最優先として取組んで参りました。当期はこのようなコロナ禍の環境下でのお客様の生活や暮らしに対するプラスアルファの提案を継続して行っておりますが、前年のコロナ特需の売上指数が非常に大きかったこと、インテリア、家電商品などの季節商品は特に8月の天候不順の影響により不振となり、前年比で既存店売上高は減収という結果となりました。

EC事業においては、重点販売商品の設定や、翌日お渡しに対応する商品の強化を行い、前年同期比で売上を伸ばしております。

ペット事業におきましては、既存店ベースの売上高は6.1%増加となりました。生体販売はコロナ特需のあった前年のような伸びは無いものの、引き続き好調に推移いたしました。新たに飼育されるお客様が増える中で、しつけ、美容といったサービスへの需要が高まっており、専門人員の配置、教育に取組んで参りました。接客からお客様の困りごとをお聞きし、用品、フードの提案を行うことで、新たな顧客づくりに取組んでおります。

コスト面につきましては、キャッシュレス決済比率の上昇や、EC売上高増にともなう負担増加がありましたが、チラシによる販売促進からweb・SNS販売促進強化へのシフト、改装時の経費削減に取組んだこともあって、計画内で推移しております。

これらの結果、ホームセンターバローにおけるセグメント営業収益は306億1千4百万円（前年同期比5.3%減）、セグメント利益（営業利益）は16億4千1百万円（前年同期比30.1%減）となりました。

[アミーゴ]

ペットショップアミーゴは、既存店ベースで客単価が0.8%減少しましたが、来店客数が前年同期比で3.1%増加したことにより、既存店売上高は2.3%増加となりました。

当第2四半期連結累計期間につきましては、前期はコロナ禍における外出自粛により室内で飼育できるペット需要が高まり生体販売数が大きく伸びましたが、当期において犬猫の生体販売売上伸長率は前期よりも鈍化している状況であります。ウサギ、ハムスターなどのコンパクトアニマルについては依然として需要が高く生体、関連用品ともに前年同期比で売上高が伸びている状況であります。ペット用品につきましては季節物のペットウェアやベッド、クール商品、ペットシートなどの消耗品関連の販売が好調に推移しております。

当第2四半期は既存店4店舗の設備入替、店内レイアウトの変更など既存店活性化を目的として店舗改装を実施しており、改装店舗における売上高を前年同期比で伸ばさせることができました。

また当第2四半期中に既存店エリアである岡山県に岡南店、新規出店エリアとなる京都府にアル・プラザ醍醐店をそれぞれ新規出店しており、既存店エリアのさらなるドミナント化の深耕と新規エリアの開拓を進めております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント営業収益は119億8千4百万円（前年同期比7.3%増）、セグメント利益（営業利益）は10億2千5百万円（前年同期比11.2%増）となりました。

[その他]

セグメント営業収益は78億3千6百万円（前年同期比16.2%増）、セグメント利益（営業利益）は9億7千6百万円（前年同期比79.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が787億4千1百万円、負債が512億6千3百万円、純資産は274億7千7百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は33.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間までの状況及び今後の見通し等を勘案した結果、2021年4月12日付「2021年2月期決算短信〔日本基準〕（連結）」において公表しました業績予想値の修正をしております。

詳細は2021年10月4日に公表しました「業績予想の上方修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,233	6,139
売掛金	1,599	2,018
たな卸資産	22,522	23,651
未収入金	5,515	5,837
その他	1,593	1,066
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	41,464	38,712
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	38,002	39,280
減価償却累計額	△21,483	△21,979
建物及び構築物(純額)	16,519	17,301
土地	4,133	4,133
リース資産	3,134	3,152
減価償却累計額	△1,472	△1,544
リース資産(純額)	1,661	1,607
その他	7,851	8,385
減価償却累計額	△5,999	△6,090
その他(純額)	1,851	2,294
有形固定資産合計	24,165	25,337
無形固定資産		
のれん	1,704	1,657
その他	5,283	5,226
無形固定資産合計	6,988	6,883
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,705	5,623
その他	2,212	2,230
貸倒引当金	△45	△45
投資その他の資産合計	7,872	7,808
固定資産合計	39,025	40,028
資産合計	80,489	78,741

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,813	9,309
電子記録債務	6,201	7,402
短期借入金	-	1,769
1年内返済予定の長期借入金	4,161	4,628
リース債務	693	684
未払法人税等	2,597	1,198
役員賞与引当金	49	3
ポイント引当金	432	436
災害損失引当金	85	7
その他	8,965	6,136
流動負債合計	35,999	31,577
固定負債		
長期借入金	13,678	13,953
リース債務	1,493	1,359
役員退職慰労引当金	116	121
退職給付に係る負債	1,122	1,092
資産除去債務	1,250	1,284
その他	1,762	1,873
固定負債合計	19,424	19,686
負債合計	55,423	51,263
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,004	2,011
資本剰余金	12,378	12,453
利益剰余金	9,513	11,820
自己株式	△1	△0
株主資本合計	23,894	26,283
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59	56
退職給付に係る調整累計額	△29	△26
その他の包括利益累計額合計	29	29
新株予約権	32	19
非支配株主持分	1,109	1,144
純資産合計	25,066	27,477
負債純資産合計	80,489	78,741

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年8月31日)
売上高	78,973	77,621
売上原価	53,314	52,218
売上総利益	25,659	25,403
営業収入	2,029	2,013
営業総利益	27,688	27,416
販売費及び一般管理費	22,067	23,179
営業利益	5,620	4,237
営業外収益		
受取利息	18	16
受取配当金	3	3
受取手数料	244	249
その他	112	140
営業外収益合計	379	410
営業外費用		
支払利息	71	54
借入手数料	36	73
その他	8	15
営業外費用合計	117	143
経常利益	5,883	4,504
特別利益		
固定資産売却益	0	0
国庫補助金	-	24
助成金収入	72	-
保険金収入	3	6
違約金収入	-	10
受取損害賠償金	-	4
その他	12	10
特別利益合計	88	56
特別損失		
固定資産売却損	-	0
固定資産除却損	18	11
固定資産圧縮損	-	17
減損損失	12	7
営業自粛による損失	99	-
その他	6	8
特別損失合計	136	45
税金等調整前四半期純利益	5,835	4,515
法人税、住民税及び事業税	2,069	1,208
法人税等調整額	△82	348
法人税等合計	1,987	1,556
四半期純利益	3,848	2,958
非支配株主に帰属する四半期純利益	59	50
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,788	2,908

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年8月31日)
四半期純利益	3,848	2,958
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	87	△2
退職給付に係る調整額	△7	2
その他の包括利益合計	80	0
四半期包括利益	3,928	2,958
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,869	2,908
非支配株主に係る四半期包括利益	59	50

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,835	4,515
減価償却費	1,165	1,253
減損損失	12	7
のれん償却額	47	47
災害損失引当金の増減額(△は減少)	-	△77
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	18	△26
株式報酬費用	55	58
受取利息及び受取配当金	△22	△20
支払利息	71	54
借入手数料	36	73
受取保険金	△3	△6
受取損害賠償金	-	△4
国庫補助金収入	-	△24
助成金収入	△72	-
固定資産売却損益(△は益)	△0	△0
固定資産除却損	18	11
固定資産圧縮損	-	17
営業自粛による損失	99	-
違約金収入	-	△10
売上債権の増減額(△は増加)	△601	△418
たな卸資産の増減額(△は増加)	432	△1,129
仕入債務の増減額(△は減少)	△215	△2,302
未払消費税等の増減額(△は減少)	304	△1,353
未収消費税等の増減額(△は増加)	340	-
その他	△1,971	△1,782
小計	5,552	△1,117
利息及び配当金の受取額	13	12
利息の支払額	△69	△52
借入手数料の支払額	△33	△71
災害損失の支払額	△96	-
営業自粛による支出	△99	-
損害賠償金による収入	-	4
助成金の受取額	62	-
保険金の受取額	301	6
法人税等の支払額	△473	△2,346
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,157	△3,565

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	-	△250
投資有価証券の償還による収入	-	100
有形固定資産の取得による支出	△2,670	△2,201
有形固定資産の売却による収入	710	1
有形固定資産の除却による支出	△5	△120
無形固定資産の取得による支出	△105	△72
貸付けによる支出	-	△2,681
貸付金の回収による収入	-	3,213
敷金及び保証金の差入による支出	△297	△166
敷金及び保証金の回収による収入	150	113
定期預金の預入による支出	△150	△150
定期預金の払戻による収入	150	150
その他	△3	27
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,223	△2,036
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,494	1,769
長期借入れによる収入	3,154	3,114
長期借入金の返済による支出	△2,243	△2,371
リース債務の返済による支出	△358	△389
配当金の支払額	△388	△598
自己株式の取得による支出	△0	△0
新株予約権の行使による株式の発行による収入	0	0
非支配株主への配当金の支払額	△6	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,338	1,508
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	595	△4,094
現金及び現金同等物の期首残高	6,044	10,080
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,640	5,986

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーバロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	24,753	8,277	32,323	11,168	76,522	4,480	81,003
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	266	92	—	—	359	2,263	2,622
計	25,020	8,369	32,323	11,168	76,881	6,743	83,625
セグメント利益	1,747	453	2,346	921	5,469	545	6,015

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,469
「その他」の区分の利益	545
セグメント間取引消去	△316
のれんの償却額	△47
固定資産の調整額	27
その他	△57
四半期連結損益計算書の営業利益	5,620

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーパロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	24,139	8,138	30,605	11,984	74,867	4,766	79,634
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	278	96	9	—	384	3,069	3,454
計	24,418	8,235	30,614	11,984	75,252	7,836	83,089
セグメント利益	1,144	249	1,641	1,025	4,060	976	5,037

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,060
「その他」の区分の利益	976
セグメント間取引消去	△709
のれんの償却額	△47
固定資産の調整額	14
その他	△57
四半期連結損益計算書の営業利益	4,237

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。